

若狭ネット

第96号 2006年 3月13日

発行：若狭連帯行動ネットワーク

代表連絡先 福井：「止めなくちゃ！

げんぱつ」連絡会(〒915-0235越前市不老町6-36 山崎方 TEL0778-42-3630) 大阪：日高原発に
反対する大阪の会(〒583-0005藤井寺市惣社1-1-21 久保きよ子方 TEL/FAX 0729-39-5660)

ホームページ <http://www4.ocn.ne.jp/~wakasant/>

E-mail: wakasa@gaea.ocn.ne.jp

最近の地震調査の研究で、

美浜原発の周辺にある多数の活断層の帯が連動して大きな地震になると警鐘！

しかし 関西電力は、活断層が連なっているかは原発周辺の地表を現地調査すれば、わかると思うだけで、調査はしていません。原発は本当に地震に大丈夫なのでしょう？

スリーマイル島原発事故27年

原発の耐震問題で関電を追及しよう！

3月30日(木)午後6時～

関電本社行動

- ・ 最近の地震調査研究の評価と食い違う関電の評価を問いただします。

場 所：関西電力本社

(地下鉄四つ橋線 肥後橋 駅下車 徒歩5分)



老朽化している原発のケアをそこそこに

ムリヤリ動かし続けようとしている！

4月 2日(日)午後 時半～4時

原発の「定期検査大幅緩和問題」

講演 討論会

場 所：東淀川勤労者センター (JR新大阪 駅下車 徒歩7分)

関電は、活断層の長さを短く評価して、
設計用地震動を小さくしている

ビルやマンションが地震で倒壊する恐れが

ある問題が浮上していますが、実は、原発の耐震設計にも大いなる疑問があります。

地震調査研究推進本部(推本)が最近まとめた全国の活断層長期評価では、これまで電

力会社が短く評価していた活断層が連動して大きな地震をもたらす可能性を指摘しているのです。原発の耐震設計を根本から見直さねばならないのですが、関西電力は見直そうとはしていません。

例えば、推本では、一般の地震防災対策のために野坂断層帯を公表し、活断層の長さは31 kmで、今後マグニチュード7.3を想定して防災対策をなさいと公表しています。しかし、関電の美浜原発では、陸地の野坂断層は海域とはつながっていないとし、古い海域調査だけで活断層の長さを17 kmとしてマグニチュード6.9で、充分であるとしています。

推本は、美浜町に住む人々にはM7.3の防災対策を！と呼びかけて、放射能を漏らしてはならない危険な原発について関電は、M6.9の地震で十分とっているのは、本当におかしな話です。誰がこんな矛盾を納得するのでしょうか。

関電が活断層の長さを短く評価するのは、
原発建設コストを値切るため

原発の耐震性は原発建設のコストに大きく跳ね返ります。だから、電力会社は、建設コストをできるだけ値切るため、活断層を短くしたいのです。

関西電力は、短くぶつ切りで評価していた活断層を連動する活断層帯ととらえ、若狭湾近辺の活断層を再調査・再検討すべきではないでしょうか。

国の原子力安全・保安院は今年2月末、日本原電に若狭湾近辺の活断層の再調査を指示しています。この調査は敦賀3・4号増設の安全審査に関係したのですが、敦賀半島周辺の海域活断層が多く含まれており、美浜原発、敦賀原発、高速増殖炉もんじゅの耐震性

評価にも影響します。

関電は敦賀3・4号増設にからんで日本原電へ社員を派遣しており、この調査にも関係しているはずですが、こそこそと陰に隠れるのではなく、推本の評価を正面から受け止め、活断層を見直すべきです。活断層をぶつ切りにするトリックでさえ「安全です」とごまかしてきた関電の責任を厳しく問いただす必要があります。

今年は、アメリカのスリーマイル島原発重大事故から27年になります。3月30日に対関電交渉を行います。皆さんと最近の地震の評価と矛盾する点を問いただしていきましょう。

原発の安全確保ができない関電
国は、電力に原発の検査を任せきりに

これまでも何度も関電は、原発の安全性がないがしろにし、そのたびに何度も「反省」しながら、今なおずさんです。配管破断による死傷事故で停止中の美浜3号では、配管の交換作業に関連して『剽印書き替え』事件で品質保証体制ができていないことが暴露されました。

深刻なことは、事故が起こるたびに検査を厳格に行うという方向ではなくなり、ドンドン規制緩和されていることです。おどろくべきことに、電力会社は、定期検査を一層短縮し、原発を13カ月を超えて24カ月まで連続運転し、運転しながら点検する方法を導入しようとしているのです。経済産業省などもそれを後押ししています。

経産省は、6月までに電気事業法改正を盛り込んだ報告書をまとめるとしています。老朽化している原発をさらに稼働率を上げ、検査を簡略化しようとする動きについて、4月2日に皆さんと講演討論会を行おうと思います。重大事故の危険性を一層高めることとなります。是非とも参加して下さい。

~~~~~ 今後の予定 ~~~~~

# スリーマイル島原発事故27年

## 原発の耐震問題で関電を追及しよう！

### 3月30日（木）午後6時～

## 関電本社行動

最近の地震調査研究の地震の評価と食い違う関電の評価を問いただします。

場 所：関西電力本社（地下鉄四つ橋線 肥後橋 駅下車 徒歩5分）

### 4月2日（日）午後1時半～4時

## 原発の「定期検査大幅緩和問題」 講演 討論会

場 所：東淀川勤労者センター

（JR新大阪 駅下車 徒歩7分）



### 4月23日（日）午後1時半～5時

## 繰り返さないでチェルノブイリ

### 4・23チェルノブイリ原発事故20周年の集い

ベラルーシの被災地から小児科医と教師を迎えて講演と交流

場 所：大阪市立総合生涯学習センター

（梅田第2ビル5階、第1研修室）

主 催：チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西



ベーラさん エレーナさん  
（小児科医）（英語教師）

### 編集後記

・小泉純一郎首相が議長となって総合科学技術会議が開かれています。その計画を見ると、今後5年間に集中して取り組む技術として、高速増殖炉サイクル技術をあげてきました。アメリカのブッシュ大統領も原子力エネルギーパートナーシップ（GNEP）構想を打ち出し、日本の動きを後押ししようとしています。アメリカの動きと日本の政府の動きを連動させながら、高速増殖炉原型炉「もんじゅ」の運転再開に向けた気運を盛り上げようとしています。原発 核燃サイクルへの逆風への巻き返しが始まったのかと注意していかねばならないと思っています。原発の技術維持のため、原発輸出まで考えています。東芝は、WH社を買収し、中国などへの原発輸出をねらっています。一日も早く原発の、核燃サイクルを推進を止めていかねばなりません。

きよ子